

— 成人向け —
R18
ADULT ONLY
18歳未満
購入・閲覧禁止



はるか昔…
世界は奇跡で
溢れかえっていた…

それらは時代によって
名や形が移ろいながら

果てな欲望に
突き動かされるように
人々の間で享受されていた…

ある時は魔法として
その技を極め真理に至ろうと
する者…

ある時は神の御業として
信仰を得ること
民心の支えとし
国を興す者など…

時代と共にそれらは
語り継がれ、また
受け継がれていった

…それと同時に
人ならざる異形の怪物、「魔物」が
各地で蔓延り
人々の生活を脅かす様になると

これらに対抗する為に
用いられる様になり
果てには種族間の
争いの火種ともなって
隆盛を極めていた

しかしいつの頃からか
急激に影をひそめてく事となり
衰退の一途を辿っていったのだった

「そして、現在では…」

ツたく！

手間アかけせんや
こつちも時間がねえん
だからよ！

テメエの親分が
依頼主からタタキした
品について

知ってること
全部吐けや！

それともよオ

吐かねえってンなら
それなりの覚悟
出来てんだろなオイ！

(※強盗の事)

あ？

んだよ
混ざりてえのか？

丁度いいや

この馬鹿から
聞きてえことがあつてよ…
手伝ってくんねえか？

体に聞くの

チッ
ノリ悪りゝなあ

やべ！

ダンナから
連絡が来てたのかよ

悪リイ悪リイ！
返信が遅れちまったわ！

ああ
何かトラブルでも
あったのか？

なーに、寧ろ平和すぎて
眠ッちまいそうなくらいだよ

そいつは良い
ニュースだな

ところで……
例の盗人連中の枝から
情報は聞き出せたか？

あー……どうやら「お昼寝中」で
口が聞けないみたいでさあ……

日に二度も良いニュースが
聞けて最高だよ

ま、そんな事だろうと思って
知り合いの情報屋から
連中の居所についての詳細な
位置を入手しておいたよ

んだよ！
今日一日の聞き込みが
無駄骨だったじゃねえかよ！

情報は多いことに越した事は無い
ついでに連中の構成員についての情報も
共有しておくぞ

奴らは大部分を亜人種で
構成された犯罪者組織で
「ハブルス一家」と名乗って
ここら近辺を暴れ回ってる
そうだ

いかにも
単細胞そうな連中だな

つまり盗まれたブツも
そこに隠してらるって事か……

しかしヨォ……

依頼主の素性どころか
盗まれたブツの内容まで
秘密なんて聞いた事ねえぞ

慎重なアンタにしては
随分危ねえ橋を渡ってんじゃなか
大丈夫かよマジで

……。
信頼できるスジからの
委託依頼だ
安心してくれ

そこからそう遠くない
場所の廃倉庫を根城に
しているようだ
恐らく構成員の殆どは
そこに潜伏している

なんだぞりゃ……

まあ、報酬が良けりや
何でも良いんだけどよ

詳細は明かされてはいないが
どうやら「魔法遺物」に関する
物である事は確かな様だな

……オイ待て！

いきなり不穏な単語が
出てきてんじゃねーか！
それ関連で
良いことがあったことなんて
一つもねーぞ！

ああ、だからこそ
特別報酬の極秘依頼という
ワケだ

だが気をつけろよ
そんな物騒なブツを盗む様な
連中だ、マトモじゃない

ヘッ！
誰に向かって言ってるんだよ！
……奪還についてはアタシのやり方
で良いんだよな？

勿論だ
無茶だけはするなよ
お前はやりすぎる
所があるからな

安心しな
久しぶりに
暴れられ
そうなんだ

スマートにぶっ飛ばして
くっからよ……！

フッ
キッ
キッ

ブアッ

どうした！
何があった！
返事をしろ！

アジト中に煙…？
ボヤ騒かと思っただが他の連中が
煙の薄い場所でも既に昏倒していタ…
…まさか侵入者カ？

兎に角幹部達を集めて
この煙を取っ払う様
末端に指示させなければ…

一体誰がここまでの規模の
ガスを蒔いたのだ！

毒ガスカ…！

まさか…この煙ハ…

火災の煙ではない
よく見たら全員
昏睡しているのカ…

グッ

ブキッ

!!?

ガッ

誰だって良いだろ
アタシはアンタらが依頼主から
タタキした
ブツを返してもらいに来ただけさ

その身のこなしと貴族
見るにアンタが此処の
親玉なんだろ？

ブツの隠し場所を
素直に吐いたら
軽く小突くだけで
勘弁してやるよ

これ以上アジトを壊されても面倒だ…
ならば一撃を持つて…！！

もしや「アノ女」が
言っていた「魔女」とは
コイツ事か…！！

アタシの睡眠ガスを吸ってんのに
ピンピンしてやがる…
コイツは毒に対する「耐性持ち」か
めんどくせえな

あのガスはこの女の仕業か…
特に武装してい無いにも関わらず
あの爆発は一体…
コイツは只者ではない

何者だッ

ズ
ズ
ズ



早いッ!
あの一瞬でオレの
背後ニ...!



やはりコイツは俺と同じ…
「奇跡使い」k…

まるで魔獣を相手にしているかの如き
敏捷性！

っ…強いッ！
女とは思えない程の膂力！

ガッ

テメエに恨みはねえから
サツには黙っというてやる
ブツさえ出せば
それで良いんだからよオ
素直に吐けやコラ

オラッ！
こっちも忙しいんだ
依頼主曰があんまり待たせるなって
条件付けてんだよ

どうしてもタタキの品
出さねえってんならよお…

そのダセエお面を
顔面ごと蹴り碎くぞコ…

コオオ



魔力鎖!?

いつの間にッ……!

発動の瞬間どころか
魔力の気配すら無かったぞ!

クソッ……!
千切れねえ

魔力が出ないどころか
力も入らねえ……!

これもアイツの
力なのか……?
いや、コイツは……

オオ!

あの怪しげな
女の戯言と
聞き流してはいたが

まさか本当に役に立つ
日が来るとは
思わなかったゾ……!

「呪の呪具」
まさかこれ程の強力な
物とはナ

奴から聞いた話では
特定の反応を持つ者の
力を封じ込めることが
出来る呪物だとカ

来たるべき時に解放されるとは
言っていたがまさかこんな形で
役に立つとは驚きダ

まるでアタシを
罠に嵌めるために
用意されたみてーじゃねえかよ

女?

たった一人生け取るのに
大袈裟なこった

フフ
同感だナ

だがしかし

この俺をここまで追い詰めた…
しかも素手の女一人にここまで
手を焼いたのは初めてだ…

しかもオレ好みの
気の強い女だ

デ
キ
エ
…

手を出さずに置くんなんて
男が廃るというモノヨ…
折角なんだ、
オレの傷をアジトの損害を
お前の体で癒してもらおうか？





特に揉めば押し返すような
この肌感がすばら……



オイ！何さも当然の如く
胸揉みしだいてんだテメエ！
痛えんだよボケ！

ム？
それはすまなかった
お前の胸の手触りが余りにも
気持ち良くてついな

すまんすまん
興奮していてつい
お前を気持ち良くする事を
忘れていたゾ

死ね！

まあそう言うな
お前も何だかんだで
気持ちよさそうだしナ

意外と乱暴にされるのが
好きなのか？
人は見かけに寄らないモノだなア？

ふむ、
ではマナー違反かとは
思うが先にオレの方を

気持ち良くして
貰おうではないか

ツツ…！
誰がテーパーの汚ねえブツしゃぶるかよ！
冗談も顔だけにしとけや！

ククク、
物には自信があるんだがな
オレもお前みたいな美人に
奉仕して貰えば

時間も掛からず
済むと思うんだがなア

でけエ…！
…こんなでけえモノ
どこにしまうスペースがあんだよ…！



光栄に思えや
クソ野郎！

上等だ…

テメエの汚物じみた
金玉空っぽになるまで
絞り上げて
やっから覚悟しろや！

後で泣き喚いて
後悔しても
止めねーからな！

クククそいつは
楽しみだナ

クセエ…
むせ返りそうになる
匂いだ…

…癪に障るが
コイツに気付かれるまでに
時間を稼がねえと…！

オオオツ！



ウツ…
躊躇いもなく一口で
啜え込むとハ…

やはり
初めてみた時から思っていたが
相当な好き物ダ

ツルツルとした口内で
ねぶる様な舌使いで
オレの一物を…!!

お前の切なさそうな顔で
奉仕されていると
すぐにでも果てて
しまいそうダ!

一々うるせーんだよ
クソガッ!

ムウ…!!
いきなり喉奥まで
啜え込んでッ…
いいかんこのままでハッ…



ッ…へっ！
どうしたよクソ野郎！
情けねえ声出してイキやがってよ
ング…ザマアねえな

ドグッ

ドグッ

ドグッ

ポッ

しかも勝手に人様の口内に
クセエもん出しやがって…
次やったら噛み千切るぞ
この早漏クズが！

ドグッ

打てば響く様な罵倒だナ…
むしろ興奮すらして来たゾ

頭沸いてんのかコイツ…

お前のことが益々気に入った！
オレばかり気持ち良くなって
すまなかったな
さて、いよいよ…

お前にも気持ち良くなって
貰わないとナ！

ビグッ

ビグッ

ビグッ

ビグッ

こんな引き締まった肉体を
いただけるなんて
盗賊冥利に尽きるナ

今まで味わったことのない様な
快楽をお前に注ぎ込んでやろう

お

ッ…

フッフ
さっきまでの威勢が
嘘のように大人しいじゃないカ

キモすぎて絶句してんだよ…
デカいだけの素チンじゃねーか

フェラのお礼だ
今度はオレが優しく…

イかせてやろうじや
ないカ!



おっとスマン
少し勢い良く入れ過ぎタ

だがまあ既に
中也滝のように濡れていたし
大丈夫だろう

ムウ…しかし…
お前とおれの身体の相性は
抜群みたいだゾ

お前の容姿、性格、
身体の相性
おれが今まで出会って来た
女の中で最高の女だ
お前をおれの伴侶にしたイ

軽く入れただけで
蠢くようにおオレのチンコを
扱き上げてくる…ッ！

やべえ…入れられただけで
軽くイっちゃまった…！

クソッこのままハメられ続け
られたら…ッ
意識が飛んじまうッ！

…最高に最悪な告白どーも
ありがとさん
お前はこれが終わった後
ソッコーでくたばって良いぞ
このクソ早漏野郎…ッ！

…オレの女になる気はないか？

はあ…？
なんの冗談だよッ

そうか、
残念だな！



なら首を縦に振るまで
黙直してやろウ!

コイツの物で貫かれる度に
身体が跳ねちまうッ……!

屈服しちまうッ……
体がコイツのモノを求めて……ッ
甘くシビれ続けちまう……!

コイツを……ッ
主人として体が認め
ちまうッ!





ようし、このまま
オレなしじゃいられないように
調教さ……ッ?



な……なんだコレは
い……意識が薄れて……!



どんだけニブいんだよ
コイツの体はよ……!!

はあ……はあ……ようやく
毒が回り始めたか……



口の中に
予備として
毒の散布カプセルを
仕込んでいて正解だったな



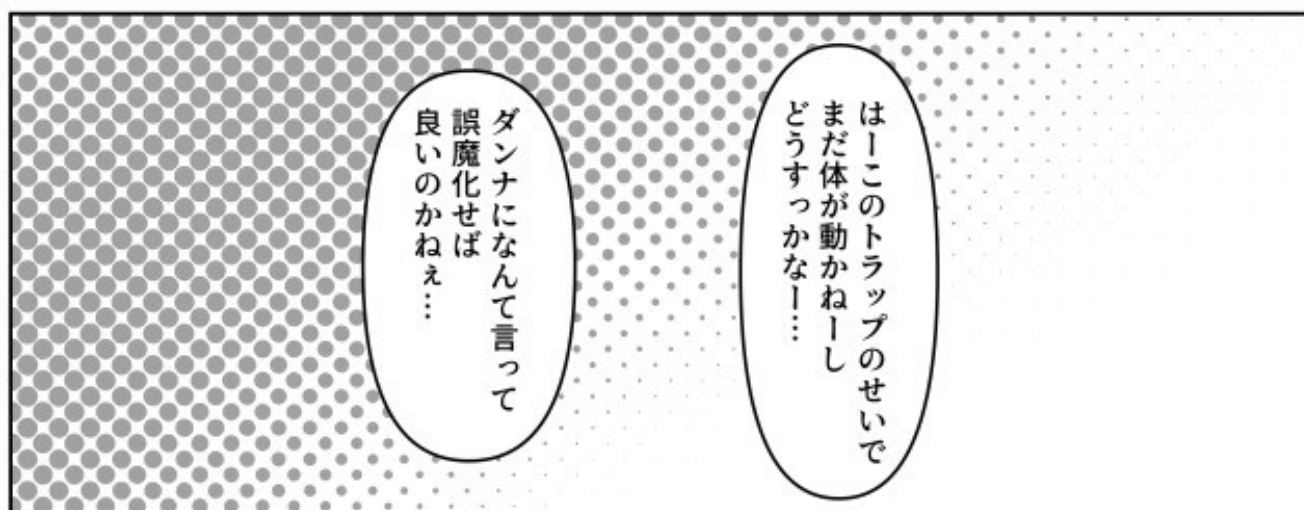
ムウン……
そうだ、偉いぞ!
ちゃんと丁寧に
聖液を舐め取るんだ

今のお前は最高に
美しく
妖艶だゾ!



耐性はあくまで耐性だ
根気よく毒を仕込んでやれば
いつかは許容量を超えて
ぶっ倒れんだよ

一時魔法が練れなくなった
時はヒヤリとしたけどよお



あとがき

本書をお買い上げいただき誠にありがとうございます！
今年の春頃にC104に新刊をという事で気合を入れて「よーし！今回は早割入稿のページマシマシの最強同人本を作るぞ〜！」と、意気込んでいたのですが
気がついたらまた追い詰められた様に極道入稿をしているという…
サングroupさんには本当に頭が上がりません…！

今年の冬コミにはもっと余裕を持って制作できるように頑張ります！（既視感が…）

発行責任者：くがら
印刷：株式会社サングroup
発行初版：2024年8月12日
Twitter：@Kugawa4423